

(行政視察・政務活動・議員研修) 報告書

令和5年 3月29日

白石市議会議長 小川 正人 殿

議員氏名 佐藤 秀行

下記のとおり行いましたので報告いたします。

期 間	令和5年 3月22日(水)～ 3月23日(木)
調査・研修先	中央合同庁舎 衆議院第二議員会館 他
調査事項 (研修事項)	西村明宏環境大臣と情報交換 不登校特例校・白石市内国道4号線拡幅について 他
対応者・講師等	・西村明宏環境大臣 ・文部科学省 総合教育政策局 時枝正和 初等中等教育局 大野照子 岡本真穂 松田明子 ・国土交通省 道路局 野村文彦 北川 健
概要 ① 背景・目的 ② 内容・特色 ③ 主な質疑 ④ 考察 (感想、課題、 政策提言等)	<p>去る3月22日(水)から23日(木)まで、2日間(1泊2日)の研修を行った。</p> <p>初日は、中央合同庁舎大臣室において、西村明宏環境大臣を表敬訪問し、情報交換を行った。環境大臣としての仕事内容等についてお伺いし、改めて大臣としての仕事の大変さ、ご苦勞、そしてその仕事を責任をもって果たされているということ強く感じた。</p> <p>二日目は、衆議院第二議員会館において、「不登校特例校、白石市内国道4号線拡幅について」研修を行った。不登校特例校の現状と課題についてお話しいただき、必要に応じて質問を行った。特例校の設置にあたっての課題として、場所の選定、先生の確保、地域住民への周知・連絡などがある。また、特例校自体が、ネガティブなイメージがあり、当事者・保護者を苦しめているという。また、温かく迎えてくれる土壌があるのかが問題であるようだ。</p> <p>現状について、先生方の配置については、先生方本人の意向を組んで人員配置を行っている。ある学校では、指導が上手な先生、優しそうな先生などを、プレゼンさせた上で、ピックアップして集めたという。</p> <p>国は令和5年度から不登校特例校の設置準備の経費として1億円</p>

-5.3.29

(案)を予算計上するとしている。文科省は、不登校特例校の設置整備を掲げ、今後全国で300校の設置を目指すとしている。

小中学校の不登校児童・生徒は、年々増加していることから、不登校の児童・生徒に寄り添うためには、対応策の一つとして、不登校特例校がある。本市の不登校特例校は、市立の小中一貫校であり、落ち着いて過ごせる居場所となることを大切にしている。興味・関心に基づく探究活動、人との関わりを重視した活動、そして、校外体験学習の導入など、学校らしくない学校を基本のコンセプトとし、個々の状況に応じた支援と社会的に自立できる力を育てていく学校として本年4月からスタートする。

不登校の理由は一人一人違い、様々である。不登校の児童生徒に寄り添うためには、人と時間が必要だと言われる。また、他の自治体においては、人と予算などが確保できないということから、設置を諦めてしまうこともあるというのが現状である。教員以外の、市採用の職員、支援員などのなどの人件費は、当然市負担になる。このようなことから、今後不登校の児童・生徒に寄り添う先生方の存在、そして予算の確保が大きな課題になると思われる。

次に、白石市内国道4号線拡幅についてお話しをいただき、必要に応じて質問を行った。

国土交通省道路局として、事業化を進めるためにも予算が必要であることから、現状、実態を把握することが必要であるとしている。そのため、地域アンケートを準備中であり、これをもとに分析していくということである。

国道4号は、東京都中央区を起点に宮城県白石市等を経由し、青森県青森市に至る延長約838kmの直轄国道である。今回の対象区間は、国道4号白石市斎川から大平森合の約3kmである。白石市内国道4号線拡幅については、計画段階評価の進め方(案)として、東北地方小委員会を3回、意見聴取を2回行い、地域の状況と課題、政策目標(案)、意見聴取方法(案)等について議論する。そのうえで、概略ルート、構造などの対応方針を決定していくということである。

道路交通・地域の状況と課題について、並行する東北道(国見ICから白石IC間)では、交通事故や雨等による通行止めが多発しており、発生回数は県内最多である。安定的に人と物が流れるネットワークが必要であるが、道路の信頼性は低い。次に産業・物流については、国道4号(国見から白石IC間)はう回路がなく、東北道の通行止めにより国道4号が渋滞し、集配時間に追われることが何度も

あるなど、国道4号への交通集中により、工場稼働や業務に支障が発生している。次に事故関連について、対象区間は死傷事故率が高い交差点などがあり、今後（仮称）白石中央スマートICの整備に伴う交通需要の増加も見据え、幹線道路として安全に通行できる機能確保が必要であるとしている。次に救急医療について、片側1車線で大型車が多いため、救急車での追い越しが困難で、搬送の遅れと安全確保に影響が出ている。白石中央スマートICが開通すれば市街地からすぐに流入可能となり、搬送時間が短くなることで患者にとって利益になる。これらの課題を踏まえ、原因を追究し、代替道路としての機能向上、交通安全の確保、幹線道路の強化など、政策目標を決定していくことになる。

質疑として、斎川から福島県境の付加車線整備によって、国道がスムーズに流れるようになった。用地確保、道の駅、工業団地、防災拠点、観光面などからも、早期の4車線を求めたい。道路が整備されると、周りの環境も良くなる。沿線の地権者も期待している。他に、開通見通し、開通目標についてなども質疑応答が行われた。道路局職員も、予算などの条件があるので、急いで丁寧に進めていきたいとしている。

このようなことから考えるに、この事業は本市において、道路交通・地域の状況と課題を踏まえ、道路の信頼性を保ち、幹線道路として安全に通行できる機能確保ができるものである。また、産業・物流の面においても、安定したアクセスルートの確保につながる。そして、安定した救急搬送ルートの確保にもつながることから、極めて重要な期待の持てる事業となっている。早期の工事の着工、完成、開通を期待するものである。